

第3回
浅草地区まちづくりビジョン策定委員会

日時：令和5年8月2日（水）
14：00～15：40
場所：台東区民会館9階特別会議室（特）

14時00分 開会

1 開会

2 会長挨拶

<岸井会長挨拶>

3 議事

○事務局 続きまして、次第の3、議事に入る前にお断りいたしますが、本会議は設置要綱第8条の規定に基づき、会議及び会議録を公開しております。本日、傍聴の方もお越しでございますので、そのままご入場いただいております。

また、会議の資料及び会議録は、内容を確認し、発言者のお名前を伏せた上で、区のホームページで後日公開させていただくことをご了承願います。

それでは、以降の議事につきましては、岸井会長よろしく願います。

○会長 今日は、議事が9つありますので、少し束ねてやりたいと思います。まず、「ビジョン策定のスケジュール」と「令和4年度の検討の振り返り」について、一括してご説明よろしく願います。

(1) ビジョン策定のスケジュール

<事務局より資料1について説明>

(2) 令和4年度の検討の振り返り

<事務局より資料2について説明>

○会長 ありがとうございます。資料1に全体のスケジュールが出ています。今日は3回目ですが、令和5年度としては初回になります。区のイメージとしては、令和6年度の頭頃に最後の会議に辿り着きたいということなので、今年が中身を議論していただく、とても大事な年になります。その作業をするために、資料2の4ページ、策定委員会の下に、まちづくりのソフトな面を検討する部会とハードな面、特に基盤について議論する部会の2つの部会を設置しています。それぞれ、本会議の間に会合を持っていただき、関係者間で意見交換をした結果が、本日上がってきているということかと思えます。

これまでも色々と議論してきていますが、全体としてまちをどう考えていくのかという本格的な議論を、今日からしていきたいと思っていますので、これまでのご発言に留まることなく、積極的に新しいまちに向けてご意見をいただきたいと思えます。

これまでの振り返りに関して、ご質問があればお受けしたいと思えますが、いかがでしょうか。振り返りですので、もし何かお気づきの点があれば、事務局の方に言っていただければと思えます。

それでは、中身に入っていきたいと思いますが、次は、「第3回各部会の概要」、「基盤整備部会の検討状況」、「まちづくり部会の検討状況」ということで、部会での議論の内容になりますので、一括でご説明していただいて意見交換をしたいと思います。事務局よりご説明をお願いいたします。

(3) 第3回各部会の概要
<事務局より資料3について説明>

(4) 基盤整備部会の検討状況
<事務局より資料4について説明>

(5) まちづくり部会の検討状況
<事務局より資料5について説明>

○会長 ありがとうございます。全体を振り返るために、資料3の2ページをご覧くださいと思います。区の方から、将来のまちのビジョンを考える大きな5つの視点として、「回遊・滞在」、「交通結節」、「防災・避難」、「水辺空間」、「地域力」で考えていくべきではないかという話があり、まちづくり部会と基盤整備部会で役割分担をして、議論を詰めていくということにしました。

まちづくり部会では、将来像について、ワークショップ等を通じて、自由にこんなまちにしたら良いなという意見交換をしたわけですが、まちづくり部会は地元の方が入っていらっしゃる会ですので、地域の方が実際にこんなまちにしたいとお考えになっている内容の整理になります。

基盤整備部会は、交通関係の方あるいは行政関係といった、主にインフラを担っている皆さんが集まっていて、具体的に交通結節をどう実現するのかということ、行政の目も入れながら考えていこうというものです。3つの鉄道の駅、観光バスの停まる場所、そして船着場、更には各地下鉄も含めて鉄道への出入り口を地域として重要視し、基盤整備の議論をやっていくということです。そして、そこから出てきたことが、水辺や防災に繋がるため、次回以降の基盤整備部会はそちらの方向に向かって進んでいくということです。

まちづくり部会は、観光についてのご意見が多かったということもあり、今回は観光を中心とした回遊性に関する議論から入っていこうかということが、先ほどの説明だったと思います。こうした部会での議論を踏まえて、この場でどんな浅草にしたいかということ、議論していきますが、ここまでの説明で何かご質問があればお受けしたいと思います。また、先生方から何か補足しておきたいことがあれば、お受けしたいと思います。

○委員 事務局から、まちづくり部会の取組みについて、ご紹介いただきましたが、補足をさせていただきたいと思います。

まず、地元の方でやっていただいた、浅草地区観光まちづくり推進協議会のワークショップですが、こういった取組みが浅草のまちを支えていると改めて感じた次第です。これだけ細かく地元の意見を吸い上げて議論できるということは、非常にすごいなと思いました。

今回、5つの要素で議論をしていきました。観光、住環境、防災、水辺、交通ということで、それぞれについて、補足と私の意見を申し上げたいと思います。

観光に関しては、浅草として多くのお客様のニーズに応える千客万来のようなかたちで、地域としては取り組まれてきたと認識していますが、今後はより尖った観光の体験や、特定のお客さんやターゲットを絞った観光のあり方を考えても良いのではないかと考えています。ベースとしては、多くの方に来ていただくというのがありますが、その中でも少し尖った部分をつくっていくことも大事だと思っています。全体のコンセプトの議論がこれから進んでいくと思いますが、その中でもどういった観光を目指していくのかについては、深く議論が必要だと思っています。

次に住環境に関しては、使い古された言葉ですが「住んでよし、訪れてよし」とありますが、この間のワークショップの議論の中では、「働いてよし」も大事だということがありました。これから、人材不足の問題も際立ってくると思いますので、「住んでよし、訪れてよし、働いてよし」の浅草ということも重要かと思っています。働く方にとって過ごしやすいまちということも、新しい視点として得られたかなと思っています。

防災に関しては、議論の中で観光地としての防災の取組みは、地域を挙げてやるべきだということで、もちろんハードの面もそうですが、ホテルや大型の施設も含めたそれぞれの事業者がどのように緊急的に対応し、一時的に受け入れていくのか、総合的に地域としての対策を考えていくという「観光防災」の考え方を持つべきだというご意見があったと思います。

水辺と交通に関しては、基盤部会の議論と重なると思いますが、特に利用のイメージといいですか、楽しいイメージをどう作るかというご意見がまちづくり部会としては多かったと思います。水辺に関しては、浅草全体で観光客をどう分散していくかという中で受け皿として大きいものなので、浅草を広げていくという中で空間的に大事なところかなと思っています。

○会長 基盤整備部会の方も、何か補足があればお願いいたします。

○委員 基盤整備部会は、本来まちづくり部会の「どういうまちにしたいのか」という考えを聞いてから議論すべき役割ですが、とはいえ我々の方でも先行して考えないといけないこと、東の回遊拠点はどういった議論をしても避けては通れないことがあります。色々な制約もあり、難しい議論になるかと思っていますので、なるべく早く議論に着手すべきという意味で、このタイミングで、こちらの方を重点的に考えていきましょう、と基盤整備部会で意思疎通したということが、正直なところではあります。

ここからは私の考えも入りますが、浅草の議論をすると、浅草しか見えなくなるということがあると思います。部会の議論でも、スカイツリーのエリアや上野のあたり

をどうするのかという軸線上の中の浅草も大事だという観点も提示されましたし、もっと大きく言うと、東京の中の他のライバルになりそうなまちも色々と投資が入って魅力的な駅まち空間になっていきますので、それを受けて浅草をどう考えていくか、マクロな視点で考えないといけないと思っています。この問題はそろそろ真剣に考えないと、東京内の地域間競争に負けてしまうのではないか、という危惧を私自身は感じています。

それから、東の回遊拠点については、観光の色合いが強いと思っており、目標は2040年と先の話ですが、観光客の入り口としての拠点の議論が、まずは大事かと思います。

西の拠点は、TXの駅だと私自身は理解していますが、こちらの方も例えば、西浅草のエリアや観音裏のエリアで、住民が増えたり、夜の楽しみが増えたり、IT企業が立地するなど、観光ではない動き・需要を考えないといけなくなると、もしかすると相対的に重要な拠点になると思いますので、基盤整備部会としては西の回遊拠点も忘れてはいけないと思います。

東西の回遊拠点が揃った時に、ウォークアブルも標榜していますので、拠点だけ立派になるのではなく、拠点間をシームレスに結んでいき、必ずしもハード整備だけではなく、運用としてのカバーもできると思うのですけれども、広域なエリアでなるべく自動車を使わずに歩けるソフト的な取組みなどを、この拠点の議論に還元すると良いと思っています。こちらの観点については、まちづくり部会を出していただける今後のあり方と連動して議論する話になると思っています。

いずれにしても、現時点では、まずは東の回遊拠点が相対的に重要性は高いということだと思いますので、今後こちらに軸足を置きながら進めていくということになると思います。私の方からは以上です。よろしく願いいたします。

○会長 ありがとうございます。東と西の話があって、西の方は将来を考えるとTXが伸びて行って、東京都が検討されている臨海地下鉄と繋がると、臨海部にまっすぐ行けて、ビックサイトのところで乗り換えると羽田空港へ行けるようになります。先の話ではありますが、羽田空港と繋がると、拠点としての意味合いが強まるだろうとは予測されるのですが、ただ、どこまでをターゲットに入れるのかということは、あると思います。

基盤整備部会、まちづくり部会の経過と中身をご説明いただきましたが、ご質問があれば、お受けしますがいかがでしょうか。

事務局の方で、取りまとめたらこうなるのではないかというものを、この後の資料6で用意していますので、そちらも一緒に説明していただいてから意見交換をしたいと思っています。

これを議論した結果が、また部会に返って行って、もう一度揉んでいただくということになると思いますので、これまでの議論はもちろんです、資料6については、ぜひご意見をいただきたいと思っています。それでは、事務局よりご説明をお願いいたします。

(6) ビジョンの基本的な考え方 (案)

<事務局より資料6について説明>

○会長 ありがとうございます。部会で議論していただいたものを踏まえて、事務局の方で、踏み込んだたたき台を書いてみたということかと思えます。これを元にして、皆様からご意見をいただいたものを、もう一度部会にお返ししながら、今年度いっぱいかけて、まとめていきたいということですので、遠慮なくご意見をいただければと思います。

幹線道路である雷門通りや馬道通りなど、地域を分断する要素だと思っていたものを乗り越えて、広がりを持たないかということが基本的な考えだと思いますが、それについてのご意見等、いかがでしょうか。

○委員 歩行者中心のウォーカブルなまちづくりが、世界的な潮流になっていますが、ウォーカブルは「手段」であって「目的」ではないので、どのようにウォーカブルなまちをつくるかが大事だと思います。その点において、今ご説明のあった大浅草構想というものが、ウォーカブル戦略のたたき台として示されたものであると理解して聞いていました。

ウォーカブル戦略の一つとして、メインの中心エリアが過密なのでオープンな空間を捻出していくということ、もう一つは、回遊の分散や周辺エリアとの繋がりの強化が、大事だと思います。先ほどは、主に2つ目の話が多かったですが、ぜひ過密エリアの中にオープンな空間を捻出することも合わせて取り組んでいくと良いと思います。

それから、回遊の分散や周辺エリアとの繋がりを強化していくにあたり、人は目的がないと歩きませんので、より広域的に回遊させるには目的性のあるエリアを、外側につくっていくことが大事だと思います。その目的が、エンタメなのか、浅草らしさなのか、水辺なのか、色々あり得ると思いますが、それを考えていくことが大事だと思います。

また、私の研究室の大学院生が、浅草と渋谷を対象にまちなかを歩く人の回遊経路と目的に関する調査を実施しています。まちなかを歩く人は、若い人を中心にスマホを見ながら歩いています。例えば、マキシマイザー（多くの選択肢から出来るだけ良いものを追い求める人）と呼ばれるタイプの人、スマホで食べログなどを調べて、できるだけ良い体験をしたいと考えて行動します。私もそういうタイプですが、そういう人も一定数います。オンラインでの情報発信も、まちの歩き方に影響を与えていると思いますので、リアルの空間の話だけでなく、オンラインの情報が回遊行動に与える影響や情報発信のあり方についてもぜひご検討いただくと良いと思います。

ハードの話では、主要幹線道路がエリアを分断しているという話がありましたが、そこをいかに繋ぐかというのは、大事な論点だと思います。そのときに、主要幹線道路の向こう側に行ったら、何かがありそうだと想起させるような空間を、いかに環境整備するかが大事だと思います。

もう1点、観光客にとってのウォーカブルが大浅草構想の軸になっていると思いますが、一方で住民にとってのウォーカブルも大事です。例えばフランスのパリでは15分都市、オーストラリアのメルボルンでは20分都市を謳っており、15~20分圏内に休憩ができる公園もあるし、買い物に行けるお店や各種サービスも一通り揃っている。住民にとって歩いて動ける範囲に充実した空間・施設が揃っているということも大事だと思いますので、観光客と住民の2軸を忘れずに、ウォーカブルなまちについて、考えていけると良いと思いました。

○会長 ありがとうございます。地元の皆様はいかがでしょう。

○委員 大浅草構想ということで、浅草をいくつかのブロックに分けて考えていますが、矛盾していると感じています。海外から来られている方は、浅草という名前は知っているかもしれませんが、ほぼこのあたり（浅草寺周辺）に来ています。隅田川の近くの賑やかな場所という感覚で来ていて、それは、我々にとっては望ましいことです。観音様と雷門の間が混んでいるからといって、隅田川に賑わいを取り戻せばそちらに行ってくれるかという、ますます人が増えてしまうのではないかと、来る人は来てしまうのではないかと考えています。

今朝の新聞に、ベネチアが世界遺産の遺産崩壊になりそうだと載っていました。人が来すぎて、大型の船がベネチアに直接入ると大変なので別の港にしたそうですが、やはりバスで来てしまって、ということがあったそうです。それと似たようなことですが、隅田川の魅力があるといくら言ったところで、そこが増えると全体が増えてしまって、中心の観音様近辺の賑わいは増えるけど減ることはありえないと思っています。

全体を考える大浅草という言葉は良いのですが、このあたり（浅草寺周辺）で考えたときに、商売をしていると、程よい数があって、たくさん来ていただければ良いというものではないと思います。適正值があるということ、そろそろ意識する時期ではないかなと思います。

外国人観光客5,000万人が、目標という時期もありました。浅草とあるいは台東区と京都市で来訪者の数を比べる話もありましたが、地区と区と市で比べる対象にならないものを、あたかも似たようなものであるかのように比べて、観光客数を増やそうと考えていたのが、少し前の観光の考え方だと思います。

次の段階は、オーバーツーリズムではなく、程よい観光客の数はどのあたりか、ということを見つける作業がまずあって、その上でそれに近づけるにはどうすればよいのかということを考えていかないと、行き当たりばったりではオーバーツーリズムによって壊されてしまうと思っています。まちは賑わいがあったほうが良いですが、川は、ほっとする空間でなくてはならないですし、どこでも同じ尺度で進めてしまうと大間違いしてしまうのではないかと、と思っています。

○会長 ありがとうございます。オーバーツーリズムという話がありましたが、来なければそれも問題ですし、多くなりすぎるのも問題です。水辺のお話が出ましたが、奥浅草の方はいかがでしょう。

○委員 前回の会議では、人流データの調査から仲見世の人出が多いという説明がありました。多いことでかえって販売がしにくくなっており、その分散をどうするかということを、前回宿題としていただいていたような気がしています。奥浅草の役員会で、奥浅草としては、この問題に対してどうするのかと話し合いました。

大浅草と言っていますが、奥も表も浅草だと皆思っていますので、同じ問題意識を持って考えないといけないだろうという意見が出ました。

分散するためには目的意識がなければ人間は分散しないと思います。では、目的は何かというと、買い物であったりしますが、買い物も浅草らしい非日常的なものまで売っているという宣伝効果によって分散させることが必要だろうと思います。

現在、浅草六区が国家戦略特区に認定されて、色々なことを行っていますが、六区を抜けたところにひさご通りという商店街があります。アーケードになっていて雨に濡れないのですが、その先の言問通りを超えることが大きな問題になっていまして、言問通りの信号を越えてまで人は来てくれるだろうか、という話し合いになりました。そこで、言問通りを通行止めにして、例えば日曜日に歩行者天国にするという意見が出ました。毎週は無理にしても、隔週なり月1回は歩行者天国にして、朝からマルシェのようなものやよそでは売っていないような物産などを並べて、各商店街も出店できるようにすれば商店街の人も潤うだろう、またマンションが増えているので、マンションの人達もそこに行けばものが買えるということで賛同してくれるのではないかと、という話し合いをしました。バスに乗ったり、タクシーに乗ったりしても人が動いていないので、歩行者の動線を中心に考えていくべきなのかなと思っています。パイロット版のようなかたちでこういうものがあれば、ここから川の方面に広がる、上野方面に引っ張るということもできるのかな、と話し合いでは意見が出ていました。問題としては、言問通りの交通やバスの停留所変更ということが出てきますが、千束通りでは、年に何回かバスの停留所を変えて、通行止めにしてイベントを開催しておりますので、現実的にはできるのかなと考えています。千束通りとひさご通りの方ともその話はさせていただいて、何かあれば奥浅草に協力するという話になっていますが、分散と歩行者動線、大きな通りを越える問題、この3つが上手く解決できると良いと思っています。現実を見たパイロット版というかたちで、提案出来れば良いのかなと思っています。

○会長 最近は社会実験ということで、トライアル的にまずやってみるということもあります。上手くいけば、常設に向かっていくということもあり得るのではないのでしょうか。商業の関係はいかがでしょうか。

○委員 正直、前から同じことを言っていて、結局何やっているのか、という感想しかありません。今は人が多くなっていると言っていますが、コロナのときの自分のところの売上は、8分の1でした。他委員が言っていたように適量が大事で、1マスには1マスしか入らないのです。それを2マス入れるような話もありましたが、むしろ人間の行動学などそういったアプローチの方が大切ではないのでしょうか。

また、浅草の魅力の中で触れられてないことは、治安が良いことだと思います。フ

ラフラ歩いていても絡まれたりしません。そういったものは守っていけると思いますが、治安が良いのは昔からいる人が住んでいるからで、お互い顔を知っているのも、なんとなくかなっていると思っています。

夜の活性化についても、よく言われていますが、どんな夜のまちにしたいのでしょうか。渋谷の109の前みたいにしたいのでしょうか。新宿みたいにしたいのでしょうか。それがないと、取ってつけたマスコミ的な知恵になってしまいます。浅草は、朝のまちで、浅草を気に入ってくれる良いお客さんは、朝から夕方にかけて回っているわけですが、そういう方は夜も歩いているのでしょうか。足元を見つめて、今あるものを研究し直すということが、必要ではないかと思っています。

自分は土産物屋なので、ターゲットは、まさにインバウンドそのものです。日本に銀聯カードを初めて導入して、大規模に動かしたのは仲見世なのですが、私はその窓口になって、2回ほど銀聯の本社に呼ばれています。そのときから不思議に思っていました。浅草に多く来ているのは、アジアの人なのに英語で説明するのは何故なのでしょう。根本的におかしいと思います。

また、DMOのときもはっきり言いましたが、富裕層を呼ぶということについて、この中で富裕層と会ったことのある人はいるのでしょうか。全く頓珍漢です。神戸では華僑が多いので、華僑大会のようなものをやったそうです。その時に、百貨店が色々な高価で豪華なものを揃えたのですが、ほとんど売れなかったそうです。何故かという、彼らからみると興味の持てない安い物ばかりで、買いたいものがないからというので、感覚が違うのです。

一般向けに言われているようなものを並べて、観光ビジョンやまちビジョンとするよりは、もう少し自分の強みを考えなおした方が良いのではないのでしょうか。浅草の魅力が分かるのは、世間一般の人々だと前から言っていますが、世間一般の人々に喜んでもらえるまちづくりということを考えたほうが良いのではないのでしょうか。

○会長 そういった考え方は、地元の中でも統一感があるのでしょうか。そのあたりは、まちづくり部会でも議論していただいて、ターゲットはどこにするのかを、考えられたらと思います。それから、適正な量が大事だと皆さんおっしゃっていますが、それはどのくらいなのか、どのようにコントロールするのか考える必要があります。また、治安が良いと言いながらも、お住まいの立場からすると、知らない人が家の前を歩いていくことへの不安もあるかと思っています。よろしければ、町会の皆さんからも、何かご意見いただければと思います。

○委員 私が引っかかるのは、国際観光都市という言葉で、浅草は観光都市だけで良いのかということです。元々、浅草は浅草寺という宗教的な発想から発展してきたまちです。そういうことを踏まえると、観光だけで良いのでしょうか。

前も言いましたが、私は浅草を盛り場にしたいと思っています。盛り場は、朝から晩まで忙しいです。少し泥臭くても、高級感がなくても、そういうまちが浅草だと、子どもの頃から思っていました。

中国からは、以前はセレブが来ていましたが、今はプチセレブが来ており、プチセ

レブの方が、数も多くて日本のものを買っていくので、セレブより良いということも聞いています。最高級品ばかりを求めなくても良いと思います。安っぽいのは嫌ですが、浅草が地元に限らず、周りから来る人にも愛されるようなまちになりたいと思います。

○会長 浅草らしさとは何か、という議論に通ずる話ですね。どういうまちのイメージを目指すのか。これは例えば、大丸有という東京駅前の威厳のあるまちづくりもあれば、渋谷で議論したときは、渋谷は大丸有とは違うよねという議論もしました。バラバラとは言いませんが、少し違うルールがあっても良いのではないかという議論でした。当然、渋谷と浅草は違うので、今後、浅草のルールは何かという話になっていくのだと思います。他はいかがでしょうか。

○委員 我々は、蔵前の方ですが、蔵前は浅草寺の門前町でした。そういうことからすると、地元の方たちは浅草に行きたいと言いたいのですが、映画館も何もないのです。地元の人を大事にしたものをつくっていただければ、自然と観光客はそういったものを見に来ると思います。観光客・インバウンドに注力して取り組むこと自体に無理があると思います。地元の人々の大切な娯楽として、昔は映画館通りがあったりしましたので、地元や鳥越、人形町あたりの人まで、みんな浅草に来ていたわけです。

浅草には、仲見世などの特徴的な商店街がありますが、浅草はどうあるべきなのかというと、地元に戻って、地元のことを思っていたら、観光客は自然に増えると思います。観光客のことばかりやっていると、大変なことになってしまうと思います。浅草に魅力があれば、周辺や地元の人が、どんどん来ると思います。今は何もありません。パチンコ屋など、そんなものばかりですよ、どこにだってあります。浅草らしい演芸などで、有名な方が浅草では多くいらっしゃいます。そういったものが生まれる土壌がなくなってしまうので、それをつくっていただきたいなと思います。

○会長 ありがとうございます。まちづくり部会の方で、本日の意見も踏まえて議論していただくことになりますが、それぞれの立場や住んでいるかどうか、年齢などによって、意見が違うのかもしれない。昔の浅草をよく知っていらっしゃる方と若い方では、感覚的に違うなと思っていらっしゃる方もいると思います。色々な方がいるということが、浅草らしさなのかもしれませんが、大きな浅草らしさを追求するというのを、引き続きやらせていただきたいと思います。各部会で上がってきた議論をこういったところで集約していきますので、引き続きよろしく願いいたします。他の方でご発言いかがでしょうか。

○委員 毎回同じことを言っているのではないか、という意見がありましたが、これまでも似たような議論がされてきているのではないか、と思います。

例えば、TXが来たときに、西側をどう魅力的にするかという様々なアイデアも出ていると思いますが、残念ながら実現していないものも多いと思います。前回のまちづくり部会の中でも、浅草寺裏の景観保全をどうするのかということが、かつて盛り上がった時期があるという意見がありました。水辺もかつて盛り上がった時期があった

と思います。中には素晴らしいアイデアもあるかもしれませんが、過去の議論を改めて確かめるということ、やっていただくと良いかなと思いました。

○会長 何かチャレンジすることも必要なのかなと思います。失敗したら、また次を考えれば良いという考え方もあるように思います。他の方でご発言いかがでしょうか。

○委員 いくつかコメントしたいと思います。今回のまちづくりビジョンは、地域が一体感をもって、「未来は向こうの方向に行かなくてはいけない」という方向感を共有することが重要だなと思っています。しかし、これまでの議論では、浅草には色々な立場の方がいるため、何が課題か今ひとつはつきりせず、何を变えるべきなのか、そもそも変える必要があるのかも、分からなくなってきた気がしています。今のままでも良いとすると、現在の形をこのまま維持すれば良いのかもと思いますが、このあたりの議論を深めることが重要かなという気がしました。

学識経験者は、浅草のまちのことは、あまり知らないかもしれませんが、まちの人が知らないことを、多分知っていると思います。色々な立場の人が知恵を出すことで、未来に向けたより良い浅草のまちのビジョンを、つくっていただけるのではないかと改めて思いました。

一方で、浅草は官がつくったまちではなく、間違いなく民がつくり上げてきたまちだと思います。恐らく、これからも民がつくりあげていくまちのような気がしています。ただし、昔の民とは状況が違ふと思いますので、少し先を見据えた新たな官と民の連携のあり方、そこに浅草らしさがあるような気がしています。今日、行政がつくった資料を、いまいちだと皆さんは思っているかもしれませんが、いまいちだと思うだけではなく、民でどうつくりあげていくのか、それを主軸で考えながら、行政はどう我々を手伝ってくれるのか、という視点で組み替えて眺めると、次の発展的な議論に繋がるのではないかなと思いました。

先日、東北新幹線が開通間近の頃に、まちの人たちがつくったまちづくりのビデオを見たのですが、これから東北新幹線が上野に来るので、これまでのまちづくりではなく、これから新しいことをやっていこうという気概に満ちた内容に感動しました。しかし、そのときに挙げられているまちの課題は、今と同じでした。40年前にも、今と同じような議論がされており、そのまま同じ問題意識で議論をしなくてはならないとなると、今一度皆で、この40年間は何かあったのかを見据えた上で、この先のことを改めて考えていくことが、非常に重要だと思いました。是非、一回見てもらえればと思います。

○会長 ありがとうございます。浅草の抱えている課題をどう解決するか、という議論が比較的多いのですが、私自身は浅草の問題だけではないように思います。

東京や日本という国を、いかに世界の人に見ていただいて、魅力的だと思っただけかということを考えるときに、浅草はとても大事だと思います。ただ、もっと浅草には良いものがあるのに、ということも気になっています。隅田川もすぐ近くにあるのに、そういう目で外国人の方が見たことがあるのかなと思うと、違うターゲットが来ているという感じがあります。本当は、隅田川から築地に行ったり、臨海部に

行ったりと、そういう意味での魅力がもっとあるように思います。

○委員 隅田川を我々が利用したいと思って色々企画を立てると、そこに立ちはだかるのは行政の壁です。ここは区が管轄しています、ここは都が管轄しています、ここは警察です、と色々なところから許可を得なければいけないため、結局駄目になってしまうということがあります。一本化すれば、色々なことができると思っています。

○会長 ありがとうございます。行政の方は、よく聞いておいてください。

○委員 ウォークブルや大浅草構想について、浅草の人間がこの通りに行動して、本当に面白いのかという目線で見ただけの方が良いと思います。例えば、奥浅草エリアは、昔は雷門周辺の人が稼いで、観音裏へ行って遊ぶというかたちでした。外国から来た人がどうかというより、地元の人がこの通りに回って面白いのかなということが重要です。自分たちが面白くなければ、他人も面白くないです。私は、お陰様でインバウンドが復活してきたので、奥浅草でお金を使っています。そうしないと駄目ではないでしょうか。このあたりは面白いのです。まずは浅草の人が歩き回って、浅草の人が浅草でお金を使えば良いと思います。インバウンドは、運が良かった程度に認識しておき、そこで稼いだお金を地元で使えば、良いまちになるのではないかと思います。とにかく、面白いまちなので、まず地元でお金を使いましょう。

○会長 地域での消費を考えるということですね。最後に、もう1つ資料があります。資料7について、事務局よりご説明をお願いいたします。

(7) 令和5年度 of 取組み <事務局より資料7について説明>

○会長 何かご質問があれば、お受けします。

○委員 ふと考えたのは、関東大震災100年についてです。1923年には、この写真にあるように跡形もなくなってしまい、その後みんなで努力して建て直しましたが、それもたった20年後の戦争でまた廃墟になってしまいました。未来は分からないから想像しないということではなくて、畏れを持って生きていかななくてはいけないと思いました。せっかく知恵を使ってつくったものも、廃墟になるということが20数年の間に繰り返されました。まちづくりとは違いますが、何かをやるとき、人は畏れを持って生きていかないと、全て駄目になってしまうのではないかと思います。

○会長 今後の基盤整備部会 of 話題でも出てきますが、防災という課題は掲げています。首都直下型地震が、そう遠からず来てしまうかもしれませんが、その時に老朽した建物が壊れてしまうかもしれませんし、火が出るかもしれません。関東大震災のような強い風がなければ、なんとか止められるかもしれませんが、阪神淡路大震災のように下敷きになって亡くなってしまう方も出るだろうと思います。どう建て替えるのかということは前から議論にありましたが、ただ強くしてガッチリとすれば良いわけではないという意見もあります。しかし、今のままずっと置いていくわけにはいかなないので、ルールが必要となってくると思います。ここについても、部会の方で議論を

深めていただきたいと思います。

先ほど、行政に対する宿題もいただきましたので、基盤整備部会の方では、そちらも含めて議論していただければと思います。また、まちづくり部会では、ソフトな仕掛け、あるいはまちの皆さんとどのように進めていくかという議論になると思います。

色々な立場の方がいますので、どこまでまとまるのか、というところはあると思いますが、大きな方向性を共有して一歩でも前に、ということをご心掛けていきたいと思っています。それでは事務局にお返しします。

4 閉 会

○事務局 沢山の宿題をいただきましたので、次回前向きに議論をしていただけるように頑張ってお参ります。また、時間が許せば、先ほど出ました、まちの方々がつくったまちづくりの動画なども見ていただくと面白いと思っております。

本日はお忙しい中ご参加いただきまして、また長時間に渡り貴重なご意見いただき誠にありがとうございました。次回の策定委員会は10月23日に開催させていただきますと考えております。以上を持ちまして第3回浅草地区まちづくりビジョン策定委員会を終了いたします。ありがとうございました。

15時40分 閉会